副市長 …… 俵　　輝孝君
副市長 …… 一宮　　努君
教育長 …… 糸瀬　英俊君
総務部長 …… 犬束　幸吉君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長） …… 阿比留満也君
しまづくり推進部長 …… 藤田　浩徳君
観光推進部長 …… 平間　博文君
市民生活部長 …… 阿比留忠明君
未来環境部長 …… 三原　立也君
福祉部長 …… 藤原　亘宏君
保健部長 …… 阿比留正臣君
農林水産部長 …… 平川　純也君
建設部長 …… 原田　武茂君
水道局長 …… 神宮　秀幸君
教育部長 …… 庄司　克啓君
中対馬振興部長 …… 永留　恵美君
上対馬振興部長 …… 玖須　博一君
消防長 …… 井　　浩君
会計管理者 …… 横松　美穂君
監査委員事務局長 …… 釜山　直樹君
農業委員会事務局長 …… 栗屋　孝弘君

午前10時00分開議

○議長（春田　新一君）　おはようございます。

陶山荘太郎君から、遅刻の届出があっております。

ただいまから、議事日程第３号により、本日の会議を開きます。

日程第１．市政一般質問

○議長（春田　新一君）　日程第１、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は、３人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。３番、諸松瀬里奈君。

○議員（３番　諸松　瀬里奈君）　皆様、おはようございます。会派新友会、３番議員、諸松瀬里

奈です。

通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

件名は、人口減少期における離島インフラの維持についてお伺いしたいと思っております。

今回、九州郵船株式会社のジェットフォイル減便が発表され、多くの市民の生活を変えざるを得ない事態に追い込まれ、多くの市民が不安や不便を感じたことと思います。私自身、この問題は、単なる一事業の人手不足や一時的な減便問題として捉えるべきではないと考えております。

人口減少や高齢化が進む中で、これまで当たり前に維持されてきた交通、物流、通信、医療などのインフラが今後も同じように維持できるとは限らない時代に入りつつあると考えております。特に国境離島である対馬では、専門人材不足や利用者減少、維持コストの増加など、本土よりも早くその影響が現れ始めていると見ております。また、ほかの離島でも、対馬と同じような状況が散見されています。今回の減便問題は、その一端が表面化した事例であり、今後、ますます深刻化していく問題だと捉えております。

私は今後の対馬を考える上で、人口減少したとしても住み続けられる島をどう維持していくのかという視点が極めて重要になると考えております。そこで今回は、人口減少期における離島インフラの維持について、市長の考えをお伺いいたします。

まず、離島交通維持の考え方についてお伺いいたします。

人口減少が進む中で、これまで当たり前だった交通サービスが維持できなくなるかもしれないという、離島である対馬が直面する新たな課題の一つだと感じております。今後、市として本土との交通をどのように維持していくお考えか、市長の見解をお伺いいたします。

次に、国、県、壱岐市との連携についてです。対馬のような国境離島は、本土とは異なる条件下で生活基盤を維持しており、人口減少や専門人材不足など共通する課題を抱えております。特に離島交通では、一自治体では解決できる問題ではないと捉え、国や県と課題認識を共有しながら対応していく必要があるのではないでしょうか。

また、博多―壱岐・対馬航路は、利用者の立場では、壱岐市と利害が一致しない場面もありますけれども、航路の維持や船員確保、国への制度要望に対して、壱岐市と共通する課題も多くあると思います。

今後の離島交通維持に向けて、国や県との課題共有及び制度要望、壱岐市や近隣離島など――五島とかですね――との情報交換や課題共有、航路維持に向けた広域的な連携について、市長の見解をお伺いいたします。

３番目に、対馬市としての公的関与の在り方についてお伺いいたします。

島に住む私たちにとって、航路や航空路、通信、医療、物流といったインフラは、単なる民間サービスではありません。生活を支える命綱であり、島で暮らし続けるための前提条件です。し

かし、人口減少が進む中では、利用者が減り、働き手も不足し、維持にかかる費用も増えていきます。その結果、これまで民間事業者の努力によって維持されてきたインフラが、採算性だけで維持できなくなる場面が、今後、さらに増えるのではないでしょうか。

特に、国境離島のインフラは、市民生活だけではなく、医療、通学、物流、観光、災害時の対応、さらには国境離島としての安全保障の面からも重要な役割を持っております。そう考えると、今後は民間事業者に任せておけばよいという考え方だけでは、島の暮らしを守りきれない時代に入っているのではないでしょうか。

市としても、民間事業者と連携しながら、必要に応じて公的支援や公的関与の在り方をいま一度検討していく必要があると考えますが、市長の見解をお伺いいたします。

以上３点につきまして、市長の御答弁をお願いいたします。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　おはようございます。諸松議員の質問にお答えいたします。

人口減少期における離島インフラの維持についてでございますが、３点について質問がありました。関連いたしますので、一括して答弁をさせていただきます。

人口減少が進む中で、離島交通の維持は市民の生活だけでなく、地域全体の発展と安全保障にも直結する重要なテーマであると認識しています。そのことから、市内の移動手段としての公共交通、島外への移動手段としての航路、航空路の離島インフラの維持、確保に努めているところでございます。

まず、離島交通の維持に関する考え方ですが、陸路における公共交通手段の維持については、人口減少や少子高齢化の影響により、利用者数の減少、欠損額の増加、運転士の不足など厳しい状況であります。

令和５年度に、令和６年度から令和１２年度までの公共交通体系の維持、改善に向けた基本方針に示す対馬市地域公共交通計画を策定しております。その基本方針を基に、路線バスや市営バスなどによる地域住民の移動ニーズをしっかり捉え、幹線強化、主要結接点での枝線接続強化、島外アクセス交通との接続強化、交通空白地の解消を図り、通院、通学、通勤、買物等における利便性が向上するよう、公共交通体系の再編を目指すため、令和６年度に、令和７年度から令和１１年度までの５か年計画であります対馬市地域公共交通利便増進実施計画を策定しております。本計画は、国の補助を活用し、専門的助言を受けながら、関係機関と運転手の確保や協働体制など、毎年度モニタリングを実施し、利便増進のための改善施策を検討、実施につなげるものであります。

航路、航空路の維持については、議員御承知のとおり、これまで航路、航空路の機材の老朽化による更新について、県、関係自治体及び関係事業者で構成する協議会において、検討、協議を

重ね、国への要望などを行い、それにより長崎への航空路を維持するため、ＯＲＣの機材更新を行い、現在建造中の九州郵船株式会社のジェットフォイル更新も実現しております。

市の民間事業者への支援ですが、航空路については、ＯＲＣ機材更新の一部負担のほか、その機材に関わるパイロット、客室乗務員、整備士の研修等、人材を育成する経費の一部を負担しております。航路については、九州郵船株式会社のジェットフォイル更新費用の一部を負担しております。陸路については、対馬交通株式会社への赤字補填及び路線バスの購入費の補助を行い、離島交通のインフラの維持、確保をするため取り組んでおります。

今回の九州郵船株式会社の船員不足による減便は、議員おっしゃるとおり、その一端であり、各種の専門的人材の確保については、人口減少などにより、ますます厳しくなると予測しております。

今後、市民の移動手段として離島交通のインフラを維持、確保する上で、機材更新、人材育成や運行ダイヤの調整など、県、関係自治体及び関係機関等、広域的に取り組まなければなりません。これまで同様、連携を行いながら、国への支援等の要望を含め、維持、確保に努めてまいります。

また、市でできる取組として、地元３高校のお仕事説明会に、交通事業者に積極的に参加いただき、高校生に職業として選択していただく機会を設けることで、船員や運転手等の育成につなげる取組を進めていきたいと考えております。

最後に、公的関与の在り方でございますが、高齢化が進む中、本市の地域公共交通の重要性が増すことを想定した各種交通モードの連携や地域の特性を生かしたデマンド交通の導入など、多様な地域交通形態を総動員した公共交通の構築を図りながら、地域全体のネットワークを最適化し、移動効率を高めるとともに、国、県、関係自治体、関係機関との連携を図り、離島交通インフラへの総合的な支援を行うことが、将来的に持続可能な地域づくりへとつながると考えております。

今後も、国、県へ現行の補助制度の継続、支援の拡充などを要望を行いつつ、地域資源の活用を含めた支援の在り方を検討しながら、離島インフラを構築してまいる所存であります。

以上でございます。

○議長（春田　新一君）　３番、諸松瀬里奈君。

○議員（３番　諸松　瀬里奈君）　市長、御答弁をありがとうございます。

今回のジェットフォイルの減便は、福岡への日帰りができなくなった影響により、対馬での生活コストが上がり、つまり福岡に１泊しなければいけないという状況を招いておりまして、やむなく、対馬から福岡本土のほうに転出する動きも出かねない状況を生んでいると見ています。ジェットフォイルを利用する人が少なくなって、船会社の経営判断では、さらなる減便を招く、ま

さに悪循環を招く事態に陥るのではないかと私は危惧しております。

だからこそ、離島の現状をさらに積極的に発信し、この国、県と連携して、国境離島の交通を維持するための制度設計へ積極的に関与していく必要があると思いますが、現状の国、県との連携はどのような感じでされているのでしょうか、教えてください。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　今回の九州郵船株式会社のジェットフォイルの便数が減便になったということで、対馬市民の皆様には大変御不便をおかけしているというふうに考えております。しかしながら、九州郵船株式会社といたしましても、この２月に、３月末で複数名の方が急な退職を言ってきたといったようなことで、やむなく、この２便体制を１便体制にして運行をしているということでございます。

ただ、この九州郵船株式会社の船員さんたちも、毎日家に帰りたいというような個人的なそういう理由があるようでありまして、そういう意味でも、対馬市のほうからそういった船員等が採用できないかといったようなことを九州郵船株式会社さんとも相談をしている状況でございます。

議員御質問のこのような航路、航空路の関係で、国、県、関係事業者とのどのような関係をしているのかということでございますけども、もちろんこの航路についても、航空路につきましても、長崎県、そして航空路については、関係自治体であります五島市、壱岐市、対馬市が入って、関係事業者とともに協議をしながら、この航空機材の更新等も進めてまいりました。

一方、この壱岐・対馬航路の九州郵船株式会社の航路でございますけども、この航路につきましても、長年、ジェットフォイルの更新を国へ県を通じて要望をしてきたわけでございますけども、やっとこの願いがかなって、まず１隻目の更新が実現して、今現在、建造中ということでございます。

今後も、この壱岐・対馬航路のフェリー、ジェットフォイル便につきましては、壱岐市と協議を綿密に重ねながら、そして県のほうへ要望等をしてまいりたい、そして県を通じて、国のほうへも同じような要望を重ねてまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（春田　新一君）　３番、諸松瀬里奈君。

○議員（３番　諸松　瀬里奈君）　ありがとうございます。ジェットフォイル１隻目の更新というか契約が去年行われて、昨日の市長の御答弁では、２隻目の更新を話しを進めているという答弁があったと思いますけれども、対馬にとっては、日帰り可能なダイヤがなければ、この船だけ増やしても意味をなさないと私は考えております。利用者の利便性を考えたダイヤ編成をしなければ、たとえ、それが１艘が２艘になったとしても、利用者が増える要因にはならないと私は考えております。

今後、２隻目の更新を話を進めるにおいて、九州郵船株式会社に対して、朝の便と夕方の便を

絶対に復活させるという条件を下に、話を進めるというお考えはございますでしょうか。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　九州郵船株式会社のほうとは、春田議長のほうとも九州郵船株式会社のほうに出向いて、いろいろと事情を聞いてまいりました。そしてまた、この対馬市のほうでも対馬市航路対策協議会等を開催いたしまして、九州郵船株式会社の代表取締役にも来ていただいて、いろいろと説明を受けております。

そういう中、九州郵船株式会社といたしましても、この収支の関係からできるだけ早くこの船員等を確保して、元の２便体制に戻したいということをおっしゃっておられますので、我々といたしましては、今、九州郵船株式会社といたしましても、これまでの待つ採用から、積極的な前に出たＳＮＳ等を活用した採用に向かっておられますので、そのことに期待をしているところでございます。

議員おっしゃられるように、いち早く２便体制に戻れるよう、これからも要望等は重ねてまいりたいと思っております。

○議長（春田　新一君）　３番、諸松瀬里奈君。

○議員（３番　諸松　瀬里奈君）　私も先日行われた対馬市航路対策協議会に傍聴としておりまして、聞いておりました。九州郵船株式会社の社長のお言葉も聞いておりました。さらに、裏取りといいますか、九州郵船株式会社に勤めるジェットフォイルに乗船されていた方のお話を聞いたんですけれども、この九州郵船株式会社の幹部というか上層部と、実際に船に乗船しているスタッフの解釈が結構かなり違っているようでして、今回の九州郵船株式会社の説明について大変失望しているという意見が、九州郵船株式会社のスタッフの中で多く広がっていると聞いております。これに絶望してというか、失望して、この１０月でまた九州郵船株式会社を退職するという動きも一部出始めていると聞いております。

九州郵船株式会社は、この新しい人材を採用することをＳＮＳを通じて進めているとしておりますけれども、もう一歩、今いる船員を大事にしてもらう、船員との対話をより深く進める、そういう体制がないと、たとえ新しく船員が入ったとしても、またすぐに辞めてしまって、なかなか雇用の継続にはつながらない。

そうすると、いつまでたっても、対馬のジェットフォイル減便問題が解決しないという問題がずっと続くのではないかと私は危惧しておりまして、これはもう対馬市が関与できる問題からちょっと逸脱していると思いますけれども、一方で、九州郵船株式会社のこの問題というか体質、船員と解釈を異なることを対外的に説明している、そしてそれが船員に伝わって失望を生み、さらなる離脱を招くという、また別の悪循環を生んでいると見ておりまして、これは恐らく今後数年は、ジェットフォイルの朝便は復活しないのではないかと思います。

市長の御答弁、もちろんごもっともなことなんですけれども、少し長期的な目線で考えますとやや楽観的すぎるかなと思います。もっと危機感を持って、私たち議員としても、議会としても協力いたしますので、全島一致してこの島外との交通を維持できるように進めていきたいと思っております。

もう一つ御提案なんですけれども、この九州郵船株式会社の船員不足問題は、九州郵船株式会社に限らず全国的に進んでいる問題です。国内の内航船の船員が全国的に不足している現状がある中で、もう一つポイントとして挙げられるのが、九州郵船株式会社の中の船員さんの内訳です。これは、壱岐市出身の船員さんが全体の七、八割に及ぶと聞いております。対馬は何割かというと、だんだん少なくなっているということで、今は二、三割にとどまっているということです。

これなぜこんなことになっているんですかと、詳しい方にお伺いしたところ、壱岐市では内航船というか、船長とか船員としてキャリアを積む、そのルートが分かりやすく示されている。自分のお父さんとか親戚が九州郵船株式会社に勤めているから、自分もそういう道があるんだなと思って、その道に進む自然な流れができていると。

対して対馬は漁師さんが多いので、漁師さんはそういうキャリアとまた違うルートなんですね。なので、もともと漁師が多い対馬では、そういう船員になるルートがなかなか共有されずに、増えずに終わっていると、そのまま進んでいるという内情をお聞きしました。ですので、今後、対馬でも船員のキャリアがあるということを島内の中学生、高校生に示して、時間がかかっても育成していく必要があるのではないでしょうか。

もちろん育成までには、もう１０年とかそういう長期間の時間が必要になると思いますけれども、例えば、船員を目指す学生を対象に奨学金を支給するなど、インセンティブを与える検討も可能ではないかと思っております。対馬のインフラや生活を支えるためのキャリア育成について、市長、お考えがありましたらお聞かせください。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　まず初めに、九州郵船株式会社の幹部とスタッフともうしますか、船員の内部の問題につきましては、市といたしましてもどこまで関われるのか、ちょっと私も、今、頭をひねっているところでございますので、このことについてはまた、いずれ改めて九州郵船株式会社の取締役の方たちと協議をしてみたいなというふうには思っております。

それと、あといろいろと話をする中で、船員を確保することは、九州郵船株式会社、そして壱岐・対馬の航路だけではなくて、鹿児島の離島のほうとか、隠岐、佐渡のほうの離島においても、やはり同じような問題が発生をしているというふうに聞いております。

そこで、できましたら、外国船員をどうかして乗せることができんかといった相談をいたしましたところ、内航航路には外国人は今のところ乗せることはできないといったようなことであり

ました。ですから、そういったところも含めて、九州郵船株式会社の社長としても、今後、国のほうへ、そこら辺の規制緩和も含めて要望をしてまいりたいというような話でございました。

それから、最後の壱岐市出身の船員と対馬市出身の船員の関係でございますけども、確かに対馬市出身の船員は近年少なくなっているというふうに聞いております。そこで先ほども、冒頭、答弁いたしましたとおり、今後、対馬の３高校等に出向いて、この九州郵船株式会社への船員としての就職の勧誘活動等を進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

それと、あともう一点が、その高校卒業後に船員等になるための船員学校に入った方への奨学金の話でございますけども、この奨学金等については、今後、そこについては検討はさせていただきたいというふうには思います。

以上であります。

○議長（春田　新一君）　３番、諸松瀬里奈君。

○議員（３番　諸松　瀬里奈君）　市長、御答弁をありがとうございます。対馬のこの離島交通は恐らく一朝一夕では、今の問題は解決できないと思っておりますので、市長のお考えを改めてお伺いいたしまして、また、ともに解決に向けて取り組んでまいりたいと思います。

最後になりますけれども、離島である対馬にとって交通は生活インフラそのものであり、命をつなぐライフラインだと、今回の減便で私も改めて気づかされました。人がこれから減り続けるのを止めることは難しいですけれども、その中で住み続けられる島をどう維持していくかというテーマについて考え、真摯に取り組む必要があると思います。

私たちはもしかしたら、どこかで、ある程度の不便を受け入れる覚悟をしなければいけない局面を迎えるかもしれません。しかし、今回の件で、対馬の大きなニーズは判明しました。本土、福岡、長崎に日帰りで行って帰る便、これを維持することが島外交通政策の根幹だということです。今回のジェットフォイル減便問題を一時的な個別問題だけで終わらせるのではなく、将来の対馬の構想を考える契機、きっかけとして今後の政策につなげていただきたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（春田　新一君）　これで、諸松瀬里奈君の質問は終わりました。

○議長（春田　新一君）　暫時休憩します。再開を１０時５０分からとします。

午前10時36分休憩

午前10時50分再開

○議長（春田　新一君）　再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。６番、佐伯達也君。